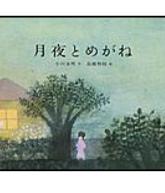


# 小学校中学年《3・4年生》のみなさんへ

## 冬休みおすすめ本リスト

## 登別市立図書館 [2016年版]

	書名 作者名 しゅっぱんしゃ	ないよう
絵本	<b>「つるのおんがえし」</b>  松谷 みよ子 文 いわさき ちひろ 絵 偕成社	山おくに住むおじいさんが、ワナにかかったつるを助けてあげました。その夜、一人のうつくしいむすめが、おじいさんとおばあさんの家にたずねてきました。人間に命をたすけられたつるが、自分の羽をぬいてぬのおる、おんがえしの民話です。
絵本	<b>「としょかんライオン」</b>  ミシェル・ヌードセン さく ケビン・ホークス え 福本 友美子 やく 岩崎書店	図書館にライオンが入ってきてしまった日、みんな大あわてする中でメリウェザー館長は、しずかにおぎょうぎよくできるなら図書館にきてもいいですよ、とライオンに言いました。そして、みんなとなかよしになれたライオンでしたが、ある日とつぜん…。
絵本	<b>「3びきのかわいいオオカミ」</b>  ユージーン・トリビザス 文 ヘレン・オクセンバリー 絵 こだま ともこ 訳 富山房	3びきのかわいいオオカミは、広い世界に出ていって、自分たちのおうちを作ることになりました。でも、オオカミたちの作ったレンガのおうちは、とんでもなく悪いおおぶたがあらわれて、こわしてしまいます。「3びきのコぶた」をもとにした、楽しい絵本です。
絵本	<b>「月夜とめがね」</b>  小川 未明 作 高橋 和枝 絵 あすなる書房	きれいな月がうかぶ春の夜に、はり仕事をしていたおばあさんのところへ、メガネ売りがたずねてきました。よく見えるメガネを買えたおばあさんは、うれしくてメガネをかけたり、はずしたりしていました。するとまた、外の戸をトントンとたたく音がして…。
図書	<b>「黒ねこのおきやくさま」</b>  ルース・エインズワース 作 山内 ふじ江 絵 荒 このみ 訳 福音館書店	一人でくらすおじいさんがいる雨のふる寒い夜に、戸口に鳴き声が聞こえたので見てみると、やせていておなかを空かせた黒ねこのお客さまが来ていました。その日は、週にいちど肉とパンを食べるごちそうの日でしたが…。

	書名 作者名 しゅっぱんしゃ	ないよう
図書	<b>「月のかがく」</b>  えびな みつる 絵・文 渡部 潤一 監修 中西 昭雄 写真 旬報社	大きく見えたり、小さく見えたり、かげになった部分がうつつらとできていたり…。いろいろなかたちを見せてくれる月を、科学てきにわかりやすくいせつしています。
図書	<b>「いのちの花」</b>  綾野 まさる 作 水沢 そら 画 ハート出版	さつしよぶんされた犬たちが、ゴミと同じようにあつかわれている事を知った女子高生たちが、しよぶんされた犬たちのほねを土に入れて花を育てる「いのちの花プロジェクト」の活動を考えました。実話をもとにした物語です。
図書	<b>「ドンマイ!」</b>  3年1組ものがたり 後藤 竜二 作 福田 岩緒 絵 新日本出版社	冬になって、3年1組の畑はサバクみたいになっていました。新入生や、そつ業生へのおくり物にするため、みんなで話し合っってチューリップの球根を百こ畑に植えて、大切に育ててきました。でも、チューリップがやっと、めを出した時…。
図書	<b>「おばけ、さがさないでください」</b>  おたすけ屋 助太のぼうけん 1 あんず ゆき 作 三木 謙次 絵 フレーベル館	「おたすけ屋」の店番をしていた助太のもとに、ちょっとヘンなおばけの馬がやってきました。助太にしかできない、たのみごとがあると言うのですが、いったいどういうことでしょうか？ヘタレな少年・助太がくり広げる、ぼうけん話です。
図書	<b>「命はどうしてたいせつなの?」</b>  大野 正人 作 ハラ アツシ 絵 出口 保行 監修 汐文社	命は大切なものだけど、人間は自分が生きるためにたくさんの命をうばって食べています。ときには、自分の命でさえ大切にできなくなるのは、どうしてでしょう…。感じたり、かんしゃをしたり、ものごとの意味をよく考えたり、思いやりの心を育ててくれる本です。